

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	パルフェスタ	重点評価区分	重点	担当部	総務部
				担当課	人権推進課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成2年度	根拠法令	葛飾区男女平等推進センター条例
性質区分	啓発・イベント	実施形態	地域との協働
対象者	一般区民		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>【概要】 日頃より男女平等推進センターを拠点として活動している団体の活動の成果発表と、男女平等推進センターのより一層のPRを目的として毎年、3月初旬に2日間開催している。実施・運営は、パルフェスタ実行委員会を組織し、団体と葛飾区の共催として行う。</p> <p>【活動内容等】</p> <p>① 人権・男女平等にかかる啓発資料の展示・配布 ② 活動団体の展示・発表、健康相談、医療福祉相談、栄養相談、障害者施設の自主生産販売等に係る支援 ③ 広報かつしか、開催周知用チラシ、区ホームページ、ポスター（区内掲示板・施設及び近隣区の施設に掲出）、FMかつしか等、さまざまな媒体によるパルフェスタの周知</p> <p>【過去の改善実績等】 実施・運営にあたっては、パルフェスタ実行委員会を立ち上げ、団体と区の共催により、団体の企画能力の向上のほか、団体相互の連携強化及び職員人件費の削減に努めてきたところである。平成21年度からは、団体構成員の高齢化に配慮し、展示パネル、長机等の設置などパルフェスタ会場設営を委託することにより、団体の負担軽減を行っている。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1601	すべての人の基本的人権が尊重され、男女が対等な立場で協力し合えるようにします
事務事業目的	パルフェスタの参加者や来場者が男女共同参画や女性の自立について考え、男女平等の理念に基づいた活動を促進するためパルフェスタを実施する。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
男女の共同参画が進んでいると思う区民の割合	葛飾区政策・施策マーケティング調査	%	目標	—	—	—
			実績	53.5	50.3	36.1
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
パルフェスタ来場者数	—	人	目標	2,000	2,050	2,000
			実績	2,000	1,800	1,200
協働団体数	—	団体	目標	28	29	30
			実績	29	28	23
パルフェスタアンケートによる初来場者の割合	—	%	目標	10.0	10.0	50.0
			実績	43.9	45.6	32.7
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	2,436	2,630
支出	直接事業費 (b)	千円	856	962
	消耗品費	千円	58	63
	印刷製本費	千円	129	129
	委託料	千円	669	770
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		職員人件費 (c)	千円	1,580
	人件費	千円	1,580	1,560
		人	0.20	0.20
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	108
	調整額 (e)	千円	160	190
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
	退職給与引当	千円	160	190
	(控) コスト対象外	千円	0	0
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	2,596	2,820

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		パルフェスタ来場者数	
実績数値 (g)	人	1,800	1,200
単位あたり区単コスト (a/g)	円	1,353	2,192
単位あたりコスト (f/g)	円	1,442	2,350

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	パルフェスタ	担当部	総務部
		担当課	人権推進課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>パルフェスタは、人権・男女共同参画を推進する男女平等推進センターをPRする場であると同時に男女平等推進センターを拠点として活動している団体の成果発表の場、地域児童の演奏発表の場、福祉施設製作品販売の場としても活用され、団体相互の連携を深める場としても機能している。運営コストも最小限の人件費・予算で実施しているところである。</p> <p>しかしながら、活動指標の参加人数は大きく減少傾向にある。とくに活動の核となる団体の高齢化により、2日間行われるイベントの人的負担も厳しくなっており、参加団体は昨年度の28団体から23団体へ5団体も減少した。</p> <p>開館当時から活動の中核を担っていた女性団体の構成員が高齢化し、後継者も育てていない状況にある。参加団体の多くは趣味を軸にした団体となり、人権・男女共同参画の色が年々薄まっている。</p>	
今後の方向性	改善	参加者の負担感を減らすとともに、より多くの活動団体の参加を促すため、よりコンパクトで密度の濃いイベントへと見直しを検討していく。
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
男女の共同参画が進んでいると思う区民の割合	葛飾区政策・施策マーケティング調査	%	目標	—	54.7	—
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
パルフェスタ来場者を増やすことで男女平等への理解を深める	人づくり	パルフェスタ参加者数	人	目標	1500	1500	1500
協働団体数を増やす	人づくり	協働団体数	団体	目標	25	25	25
PRを工夫し、パルフェスタ初来場者数を増やす	人づくり	パルフェスタアンケートによる初来場者の割合	%	目標	40.0	40.0	40.0
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	非核平和都市宣言関連事業	重点評価区分	重点	担当部	総務部
				担当課	総務課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和58年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	区民		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>唯一の被爆国の自治体として、世界の恒久平和と核兵器の廃絶を求めていくことを宣言した「葛飾区非核平和都市宣言」に則り、各種非核平和事業を行う。</p> <p>①非核平和祈念のつどいを青戸平和公園にて開催（例年8月1日）。議員や連合町会長を招待する他、会場付近の保育園や高齢者クラブにも協力を仰いでいる。平成17年度から、区内小中学校に千羽鶴の作製を依頼、本つどいで献架等に活用する。</p> <p>②原爆資料及び写真ポスター展（7月下旬～8月上旬）</p> <p>③折鶴コーナー設置（7月中旬）</p> <p>④広島及び長崎平和祈念式典等への職員派遣</p> <p>平成25年度は区が宣言をして30周年の節目の年であったため、30周年記念コンサートの実施や子どもたちによる「非核・平和 未来への誓い」など、記念となる取組みを行った。 また、青戸平和公園について、被爆レンガの展示ボックスの修繕、タイルの張替え、平和祈念塔の周囲に柵を設置するなど改修を行った。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1602	世界平和を願い、核兵器廃絶を望むようにします
事務事業目的	区民一人ひとりに戦争の悲惨さと核兵器の恐ろしさを訴え、非核平和に対する意識の継続・向上を促す。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
非核平和に関心のある区民の割合	葛飾区政策・施策マーケティング調査	%	目標	—	—	—
			実績	71.0	70.5	69.0
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
アンケート回収数(被爆体験講話会・原爆資料展)	—	枚	目標	1,500	1,500	1,500
			実績	350	973	670
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	6,787	6,197
支出	直接事業費 (b)	千円	1,257	3,077
	報償費	千円	10	15
	消耗品費	千円	104	143
	印刷製本費	千円	40	40
	修繕料	千円	196	1,874
	通信運搬費	千円	475	507
	筆耕翻訳料	千円	23	23
	保険料	千円	22	0
	委託料	千円	315	387
	使用料及び賃借料	千円	72	76
	負担金	千円	0	12
	職員人件費 (c)	千円	5,530	3,120
	人件費	千円	5,530	3,120
		人	0.70	0.40
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
	調整額 (e)	千円	560	380
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
退職給与引当	千円	560	380	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	7,347	6,577

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		—	—
実績数値 (g)	—	—	—
単位あたり区単コスト (a/g)	円	—	—
単位あたりコスト (f/g)	円	—	—

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	非核平和都市宣言関連事業	担当部	総務部
		担当課	総務課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>昭和58年に「非核平和都市宣言」を行い、区民の非核平和への関心を高め、先の戦争での貴重な記憶・体験を若い世代に引き継ぐための本施策を実施している。「葛飾原爆被爆者の会」の活動を支援し、協力して各種平和啓発事業を実施しており、事業については一定の認知度は得ている。 戦後69年が経過し、戦後世代が多数を占める中で、事業内容の改善を適宜図りながら継続する必要がある。</p>	
今後の方向性	改善	<p>「葛飾原爆被爆者の会」の高齢化も視野に入れ、小中学生などの若年世代に対する啓発事業を中心に、「教える・伝える」だけでなく「自分で考える」参加型の事業を展開するなど、引き続き改善を図っていく必要がある。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
非核平和に関心のある区民の割合	葛飾区政策・施策マーケティング調査	%	目標	—	75.0	—
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
多くの区民が活動に参加し、非核平和に関心をもつ機会をつくる	人づくり	アンケート回収数(被爆体験講話会・原爆資料展)	枚	目標	1000	1000	1000
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	地区センターまつり等支援	重点評価区分	重点	担当部	地域振興部
				担当課	地域振興課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和59年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	地域との協働
対象者	地域住民		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>まちづくり懇談会や地区センター管理運営協議会が実施主体となり、コミュニティ活動やレクリエーション・学習交流等で地区センターを利用している団体等の日頃の成果を発表する場として、地区センターまつりを実施する。</p> <p>区は、会場設営委託料や各種消耗品などの経費を助成するほか運営の支援を行っている。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1701	地域団体や市民活動団体等の活動が積極的に行われるようにします
事務事業目的	実施主体の企画・運営力の向上を図るとともに、各団体の活動の活性化と地区センターの利用促進を図る。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
実施地区率	実施地区数／対象地区数 (19地区) × 100	%	目標	52.63	52.63	52.63
			実績	52.63	52.63	52.63
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
地区センターまつり実施地区	—	地区	目標	10	10	10
			実績	10	10	10
ホームページへの掲載回数	—	回	目標	10	10	10
			実績	10	10	10
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	12,469	11,507
支出	直接事業費 (b)	千円	3,821	2,968
	消耗品費	千円	486	268
	食糧費	千円	630	556
	通信運搬費	千円	3	1
	委託料	千円	2,393	1,831
	自動車借上料	千円	299	302
	使用料及び賃借料	千円	10	10
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	8,648	8,539
	人件費	千円	8,648	8,539
		人	1.10	1.10
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
調整額 (e)	千円	872	1,036	
減価償却費	千円	0	0	
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	872	1,036	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	13,341	12,543

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ来場者数	
実績数値 (g)	人	36,990	32,789
単位あたり区単コスト (a/g)	円	337	351
単位あたりコスト (f/g)	円	361	383

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	地区センターまつり等支援	担当部	地域振興部
		担当課	地域振興課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>地区センターまつりの入場者数は雨天等の影響もあり、平成24年度から25年度にかけて若干減少したものの、参加団体数は439団体から470団体へと7%増加している。 今後も事業を継続することによって、地区センターまつりに主体的な立場でかかわる団体が増加するとともに、各団体の自立と活動の充実を期待する。</p>	
今後の方向性	改善	
	継続	事業継続により、地域における組織や地域の活動団体の主体的な取組みを支援し、地区センターと地域の連携の更なる充実を図る。

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
実施地区率	実施地区数／対象地区数 (19地区) × 100	%	目標	52.63	52.63	52.63
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
実施地区へ助成をはじめとした各種支援を行う	参加団体の活性化	地区センターまつり実施地区	地区	目標	10	10	10
地域の方への情報提供を行い来場者数の向上を図る	情報発信	ホームページへの掲載回数	回	目標	10	10	10
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	JOBANアートライン協議 会	重点評価 区分	重点	担当部	地域振興部
				担当課	文化国際課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成18年度	根拠法令	JOBANアートライン協議会会則
性質区分	啓発・イベント	実施形態	民間事業者・NPO団体との協働
対象者	常磐線沿線自治体住民等		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施 内容、手段、過去の 改善実績等)	<p>【概要】 アートを基調とした常磐線沿線情報の共有と連携環境の整備により、常磐線沿線のイメージアップ、活性化、情報発信力の強化、交流人口の拡大を図るため設立された協議会。 総会が年1回、幹事会が年2回開催されている（平成25年度は3回開催）。</p> <p>①構成団体：台東区、荒川区、足立区、葛飾区、松戸市、柏市、我孫子市、取手市（事務局）、JR東日本、東京藝術大学。 ②会員：葛飾区長 幹事会員：文化国際課長</p> <p>【主な活動内容】 ①「JOBANアートアンブレラ」の実施 JR東日本の引き取りのない忘れ物傘にペイントを施し再利用するアートイベントを実施する。平成21年度から24年度までは北千住駅構内で年に1回実施していたが、平成25年度はアートキャラバンとして、構成自治体ごとに計8回実施した。 ②情報の共有・発信 各構成団体で実施するアートイベント等の情報を事務局で集約し、各構成団体のホームページやJR常磐線駅構内待合室等においてPRを図る。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策 番号	施策	1801	区民の文化・芸術への参加意欲を高め、地域文化・芸術を創造します
事務事業目的	アートを基調とした常磐線沿線情報の共有と連携環境の整備により、常磐線沿線のイメージアップ、活性化、情報発信力の強化、交流人口の拡大を図る。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
イベント参加者数	JOBANアートアンブレラ参加者数	人	目標	—	—	400
			実績	98	95	520
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
イベント開催数	JOBANアートアンブレラ開催数	回	目標	—	—	1
			実績	1	1	8
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	445	440	
支出	直接事業費 (b)	千円	50	50	
	負担金	千円	50	50	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	395	390
		人件費	千円	395	390
		人	0.05	0.05	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	40	48	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	40	48	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	485	488	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		イベント参加者数	
実績数値 (g)	人	95	520
単位あたり区単コスト (a/g)	円	4,684	846
単位あたりコスト (f/g)	円	5,105	938

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	JOBANアートライン協議会	担当部	地域振興部
		担当課	文化国際課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>JOBANアートアンブレラの参加者数について、平成23・24年度は、定員である100名に近い実績を達成している。</p> <p>平成25年度は経費を増やすことなく実施方法を変更し、アートキャラバンとして構成自治体ごとに計8回実施した。参加者数を大きく伸ばし、常磐線沿線の交流人口の拡大に繋げることが出来た。</p> <p>なお、実績数値の520人は8回の合計人数であるが、葛飾区では「第20回かつしか国際交流まつり」と同時開催し、相互にPRすることで8自治体の中で最多である128人の方に参加いただくことが出来た。</p>	
今後の方向性	改善	<p>平成26年度は常磐線の東京駅乗入が予定されており、常磐線沿線のイメージアップ・活性化が図れる良い機会である。協議会構成団体と検討を重ね、新たなイベント内容の工夫により一層の交流人口拡大を図る。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
イベント参加者数	JOBANアートアンブレラ参加者数	人	目標	160	520	520
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
協議会のPR、地域の活性化を図るためイベントを開催する。	おもてなし	イベント開催数	回	目標	1	8	8
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	区民文化祭	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	生涯学習課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和30年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	地域との協働
対象者	一般		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>【実施内容】</p> <p>①10月初旬～11月中旬までの約40日間、17項目に分けて実施</p> <p>②文化協会17団体との共催実施（発表・展示・大会等）、合唱連盟との共催実施（合唱の部）、その他の種目の発表の場（フリーステージ）は区主催</p> <p>③リリオホール・シンフォニー・テクノプラザ・4地区センターの施設を使用</p> <p>④賞状・トロフィーの授与あり（10部門）</p> <p>⑤周知方法 広報紙他</p> <p>⑥募集方法 文化協会加盟団体種目は各団体において、その他は生涯学習課</p> <p>⑦費用負担 区負担分（会場使用料、ポスター等の印刷、謝礼等報償費、設営委託料等）参加団体負担分（出展・出品にかかる経費）</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1801	区民の文化・芸術への参加意欲を高め、地域文化・芸術を創造します
事務事業目的	区が文化祭という発表の場を提供することによって、文化芸術活動に日頃から取り組んでいる区民が、目標を持って更に生き生きと活動できる。区民が文化祭に参加・鑑賞することによって身近な文化・芸術に親しみ、日本の伝統文化の継承活動に対する関心や参加意欲を高めしていく。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
来場者数	—	人	目標	7,100	7,100	7,100
			実績	7,044	6,948	6,397
参加者満足度	(好評アンケート数/アンケート回収数) × 100	%	目標	75	75	75
			実績	67	73	73

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
種目数	—	種目	目標	17	17	17
			実績	17	17	17
参加者数	—	人	目標	3,400	3,400	3,400
			実績	3,425	3,237	3,056
—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	9,229	9,271
支出	直接事業費 (b)	千円	4,094	4,201
	報償費	千円	530	530
	消耗品費	千円	193	253
	印刷製本費	千円	403	506
	食糧費	千円	40	40
	手数料	千円	24	24
	委託費	千円	433	466
	使用料及び賃借料	千円	2,471	2,382
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	5,135	5,070
	人件費	千円	5,135	5,070
		人	0.65	0.65
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
調整額 (e)	千円	520	618	
減価償却費	千円	0	0	
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	520	618	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	9,749	9,889

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		来場者数	
実績数値 (g)	人	6,948	6,397
単位あたり区単コスト (a/g)	円	1,328	1,449
単位あたりコスト (f/g)	円	1,403	1,546

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	区民文化祭	担当部	教育委員会事務局
		担当課	生涯学習課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>文化協会加盟団体及び合唱連盟との共催により、コンクール・発表・大会などの形式で実施することにより、区民の文化活動への参加や練習の成果を発表する場としての役割を果たしている。</p> <p>また、日本の伝統的な文化活動にとらわれない、様々なジャンルの発表の場として開催している「フリーステージ」については、近年、参加希望団体も増加しており、こうした文化活動の場の提供に対するニーズが高まっている。</p>	
今後の方向性	改善	日本の伝統的な文化継承活動のほか、様々な分野の文化活動を推進するため、区民が身近にある文化活動を知り、気軽に参加できるよう、事業内容や周知方法を検討する。
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
来場者数	大会・展示・発表各会場の来場者数	人	目標	7,100	7,100	7,100
参加者満足率 (出品・出演・参加者の満足度)	(好評アンケート数/アンケート回収数×100)	%	目標	75	75	75

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
実施団体への活動を支援する。	実施団体の活性化	実施種目数	種目	目標	17	17	17
団体が参加しやすい環境に整備する。	活動に対する意欲	参加者数	人	目標	3,400	3,400	3,400
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	合唱祭	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	生涯学習課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和63年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	地域との協働
対象者	区民		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>葛飾区合唱連盟と共催で開催。</p> <p>①年に1回、毎年6月に開催</p> <p>②役割分担 区分担…会場使用にかかる経費、講師謝礼、広報活動、合唱連盟分担…プログラム作成、運営にかかるその他経費、実際の運営</p> <p>③運営 実行委員会形式により、運営にかかる委員を、合唱連盟加盟団体や参加団体が自主的に分担し、開催している。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1801	区民の文化・芸術への参加意欲を高め、地域文化・芸術を創造します
事務事業目的	<p>(1)練習成果の発表の場と交流機会を提供することによって、団体の参加意欲を持たせるとともに活動の活性化を促し、区民の合唱技術の向上につなげる。</p> <p>(2)合唱祭への来場を促進し、合唱活動をとおして区民の文化活動を振興する。</p>		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
来場者数	合唱祭への来場者・参加者	人	目標	1,300	1,300	1,400
			実績	1,284	1,392	1,378
参加団体満足度	合唱祭参加者に実施しているアンケート結果	%	目標	85	85	85
			実績	70	72	69

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
参加団体数	合唱祭への参加団体	団体	目標	35	35	35
			実績	31	32	30
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	2,847	2,816
支出	直接事業費 (b)	千円	872	866
	報償費	千円	276	276
	消耗品費	千円	15	20
	手数料	千円	24	24
	使用料及び賃借料	千円	557	546
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	1,975	1,950
	人件費	千円	1,975	1,950
		人	0.25	0.25
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
調整額 (e)	千円	200	238	
減価償却費	千円	0	0	
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	200	238	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	3,047	3,054

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		来場者数	
実績数値 (g)	人	1,392	1,378
単位あたり区単コスト (a/g)	円	2,045	2,044
単位あたりコスト (f/g)	円	2,189	2,216

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	合唱祭	担当部	教育委員会事務局
		担当課	生涯学習課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	合唱連盟との共催により実施し、安定的な運営がなされている。しかし、参加団体が固定化するなど、ややマンネリ化している状況にある。	
今後の方向性	改善	新たな参加団体や若い世代の参加を促すために、区内にある教育機関の合唱団体などへの働きかけなどを行っていく。 また、近隣自治体の合唱団体との交流を推進することなどにより、団体間の交流の場を広げより活発な活動を促していく。
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
来場者数（参加者を含む）	合唱祭への来場者・参加者	人	目標	1,400	1,400	1,400
参加団体満足率	合唱祭参加者に実施しているアンケート結果	%	目標	85	85	85

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
多くの団体が参加できる事業運営を行う。	参加可能団体数	合唱祭参加団体数	団体	目標	35	35	35
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	文化財保護普及・啓発	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	生涯学習課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成3年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	区民等		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>①柴又地域文化的景観調査 調査期間：平成23年度～26年度（4年間） 柴又地域文化的景観調査委員会 2回実施、調査委託先：東京大学 地域住民向説明会、フォーラム等の実施</p> <p>②区内19連合町会からそれぞれ推薦された19名の文化財保護推進委員による文化財愛護思想の普及・啓発活動・文化財めぐり（年3回）、情報紙発行（年4回）、文化講座（年1回）</p> <p>③23年度をもって中止した旧家所蔵歴史民俗資料等調査（団員7名／各年8回調査実施） 旧家・神社などに眠る貴重な文化財を調査、登録文化財候補として審議会上に挙げる。 発見した史料等は報告書にまとめ、成果として協力者へ配布し、区民も図書館・博物館・区政情報コーナーで閲覧ができる。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1801	区民の文化・芸術への参加意欲を高め、地域文化・芸術を創造します
事務事業目的	<p>①地域の文化財に関する区民の認識を深め、郷土愛を育む。また、文化財への関心は年代による偏りがあるため、伝承の見地からも、若年層の参加を増やす。</p> <p>②区内の文化財を適切に保護・周知し、後世に伝えていく。</p>		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
文化財関係の刊行物の発行回数	文化財情報誌等の発行回数	回	目標	4	4	4
			実績	5	4	4
講座等参加者数	文化的景観説明会・フォーラム、文化財めぐり等の参加者数	人	目標	200	200	240
			実績	274	212	294

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
報告書、情報誌の発行部数	文化財に関する報告書、情報誌の発行部数	回	目標	12,500	12,500	12,500
			実績	12,500	12,000	12,000
講座等の開催回数	文化的景観説明会・フォーラム、文化財めぐり等の開催回数	回	目標	4	4	4
			実績	4	4	7
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	4,442	1,584
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	18	22
	一般財源 (a)	千円	12,466	6,482
支出	直接事業費 (b)	千円	12,900	6,138
	報償費	千円	2,326	2,753
	費用弁償	千円	37	0
	消耗品費	千円	187	242
	印刷製本費	千円	83	569
	通信運搬費	千円	75	87
	保険料	千円	8	8
	委託料	千円	10,184	2,479
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	2,135	1,950
	人件費	千円	2,135	1,950
		人	0.35	0.25
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	1,891	0
	調整額 (e)	千円	160	238
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
退職給与引当	千円	160	238	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	17,086	8,326

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ来場者数（文化財めぐり、文化講座等）	
実績数値 (g)	人	212	294
単位あたり区単コスト (a/g)	円	58,800	22,048
単位あたりコスト (f/g)	円	80,593	28,320

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	文化財保護普及・啓発	担当部	教育委員会事務局
		担当課	生涯学習課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>○柴又地域文化的景観調査 国の重要文化的景観選定に向け、平成23年度から4力年にわたり、柴又地域文化的景観調査を行っており、調査最終年度にあたり今年度は、調査報告を刊行する予定である。 また、25年度は文化的景観に関する地元・一般区民向けの説明会やフォーラムを実施した。</p> <p>○文化財保護推進委員 区内文化財の保護・活用を推進するため、19連合自治町会毎に文化財保護推進委員を推薦いただき、区内文化財めぐり、情報誌発行、文化財講座等を実施している。 また、区史編纂にも積極的に関わって頂いている。</p>	
今後の方向性	改善	<p>○柴又地域文化的景観調査 今年度も引き続き、地元・区民に対する説明・周知を図り、選定に向け、区民との協働を進める。</p> <p>○文化財保護推進委員 地域の歴史や文化財に詳しい推進委員との協働を進め、区史編纂に積極的に関わっていただき、併せて文化財めぐり等の事業を通じて、区内文化財の魅力を発信していく。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
文化財事業への参加者数	文化的景観説明会・フォーラム、文化財めぐり等の参加者数	人	目標	280	280	280
文化財関係の刊行物の発行部数	文化財に関する報告書、情報誌の発行部数	部	目標	12,500	12,000	12,000

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
文化財に関する事業を充実させる。	普及・啓発活動	文化的景観説明会・フォーラム、文化財めぐり等の開催回数	回	目標	7	7	7
文化財に関する情報収集と発信を行う。	情報発信	文化財に関する報告書、情報誌の発行回数	回	目標	5	4	4
	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	総合芸術祭典	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	生涯学習課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和57年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	地域との協働
対象者	葛飾区文化協会会員		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>【概要】 文化協会の主催事業である総合芸術祭典を区民文化振興の観点から支援し、経費の一部を負担する。</p> <p>【活動内容】 1 主催 葛飾区文化協会 葛飾区教育委員会 2 実施時期 6月 ①発表の部（葛西ばやし・吟剣詩舞道・日本舞踊・民謡民舞2団体・謡曲・新舞踊・三曲） ②展示の部（書道・華道・俳句・短歌・川柳）（茶席）展示と同時開催（写真・盤景） ③大会の部 囲碁・将棋 3 参加者 発表・展示は文化協会加盟団体会員、大会は区民一般参加あり 4 周知方法 広報紙他 5 費用 区負担（プログラム印刷、会場・付帯設備使用料）協会負担（ポスター印刷他）</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1801	区民の文化・芸術への参加意欲を高め、地域文化・芸術を創造します
事務事業目的	日頃から熱心に文化芸術活動に取り組んでいる会員が、総合芸術祭典の開催によって、目標を持って更に活発な活動をする。各団体が協力し合い事業を主体的に実施することで、各団体間の交流を深め、文化活動を活性化させる。区民に鑑賞・参加してもらうを通じ、会員が区民の文化芸術活動に貢献する。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
来場者数	—	人	目標	2,000	2,000	2,000
			実績	1,750	1,763	1,875
参加者満足度	(好評回答数/アンケート回収数) × 100	%	目標	78	78	90
			実績	86	90	84

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
出演・出展・参加者数	—	人	目標	720	720	720
			実績	634	687	649
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	2,109	2,052	
支出	直接事業費 (b)	千円	529	492	
	印刷製本費	千円	79	79	
	使用料及び賃借料	千円	450	413	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	1,580	1,560
		人件費	千円	1,580	1,560
		人	0.20	0.20	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	160	190	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	160	190	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	2,269	2,242	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		来場者数	
実績数値 (g)	人	1,763	1,875
単位あたり区単コスト (a/g)	円	1,196	1,094
単位あたりコスト (f/g)	円	1,287	1,196

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	総合芸術祭典	担当部	教育委員会事務局
		担当課	生涯学習課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	文化協会加盟団体が、日頃の活動の成果を発表する場としての役割を果たしている。また、来場した区民が文化活動に関心を持つきっかけともなっている。 一方で、活動に携わる区民の高齢化が進むとともに、来場者数も伸び悩むなどの状況にある。	
今後の方向性	改善	日本の伝統文化の継承と振興のため、特に次世代の活動を担う若年層の関心を高めるような事業の実施方法を検討する。
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
来場者数	大会・展示・発表各会場の来場者数	人	目標	2,000	2,000	2,000
参加者満足率 (出品・出演・参加者の満足度)	(好評回答数/アンケート回収数) × 100	%	目標	90	90	90

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
団体が参加しやすい環境を整備する。	活動に対する意欲	出演者数・出展数	人	目標	720	720	720
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	あいさつ運動推進	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	指導室

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成16年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	地域との協働
対象者	区内在学及び区内在住の小・中学生		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	4月と11月をあいさつ強化月間として、その啓発のため、標語やポスターを公募してあいさつ運動の盛り上げを図っている。また、標語はのぼり旗や横断幕に印刷し、啓発ポスターとともに各小中学校に配布し掲示することにより、学校だけでなく、家庭や地域社会とも一体となった取組を進めている。あいさつ運動の周知が充分になっていることと、応募作品が過去の作品と重なることが多くなっていることを考え、平成26年度より啓発標語コンクールを実施しない。		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1902	社会生活のルールを学び、悩みを解決する中で、心豊かな学校生活を送ることができるようになります
事務事業目的	豊かな心や人間性を育むために、あいさつができる児童・生徒の育成を図っている。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
「近所の人にあったとき挨拶をしている」児童・生徒の割合	「確かな学力の定着度調査」の「近所の人に会ったとき挨拶をしている」という調査項目に肯定的な回答をした児童・生徒の割合	%	目標	85	85	85
			実績	78	78	78
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
あいさつ運動啓発標語・ポスターコンクールへの応募作品数	あいさつ運動啓発標語応募作品数とポスター応募作品数の合計	点	目標	16,000	16,000	18,000
			実績	20,275	17,603	17,791
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	1,220	1,193	
支出	直接事業費 (b)	千円	430	413	
	消耗品費	千円	310	317	
	印刷製本費	千円	120	96	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	790	780
		人件費	千円	790	780
		人	0.10	0.10	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	80	95	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	80	95	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	1,300	1,288	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		周知件数（のぼり旗、啓発ポスター等）	
実績数値 (g)	件	4,400	4,400
単位あたり区単コスト (a/g)	円	277	271
単位あたりコスト (f/g)	円	295	293

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	あいさつ運動推進	担当部	教育委員会事務局
		担当課	指導室

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>あいさつ強化月間（4月と11月）として、その啓発のため、標語やポスターを公募してあいさつ運動の盛り上げを図ってきた。また、標語はのぼり旗や横断幕に印刷し、啓発ポスターとともに各小中学校に配布し掲示することにより、学校だけでなく、家庭や地域社会とも一体となった取組を進めてきた。</p>	
今後の方向性	改善	<p>・啓発標語コンクールについて、あいさつ運動の周知が充分になっていることと、応募作品が過去の作品と重なることが多くなっていることを考え、平成26年度より啓発標語コンクールを実施しない。今年度より取り組んでいる「かつしかっ子宣言」とも連動し、各学校における取組は継続することとして、本事業は平成26年度で廃止する。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
「近所の人にあつたとき挨拶をしている」児童・生徒の割合	「確かな学力の定着度調査」の「近所の人にあつたとき挨拶をしている」という調査項目に肯定的な回答をした児童・生徒の割合	%	目標	85	—	—
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
児童・生徒が「あいさつ運動」に積極的に取り組めるように啓発活動を行う	人づくり	あいさつ運動啓発ポスター応募作品数	点	目標	3,000	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	はたちのつどい	重点評価 区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	地域教育課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和25年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（委託）
対象者	20歳を迎える区民		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施 内容、手段、過去 の改善実績等）	<p>成人になった事を自覚し、自立しようとする青年を祝い励ますことを目的に次のとおり「はたちのつどい」を実施する。</p> <p>(1) 開催日時 1月の第2月曜日（成人の日）午前10時30分～午後1時</p> <p>(2) 会場 かつしかシンフォニーヒルズ</p> <p>(3) 内容</p> <p>ア 式典・記念コンサート 祝辞、葛飾吹奏楽団・ゲストの演奏など</p> <p>イ 憩いの広場 青少年委員会による着付け直しコーナー ジュニアリーダークラブによるドリンクコーナー・記念写真等</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策 番号	施策	2001	青少年のための活動機会を整え、活発に活動できるようにします
事務事業目的	はたちのつどいに参加したことにより、成人としての自覚を促す。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
参加者数	対象者の6割（過去平均）	人	目標	2,500	2,500	2,500
			実績	2,500	2,100	2,500
事故件数	事故件数なしを目指す	件	目標	0	0	0
			実績	0	0	0

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
対象者全員に案内通知	住民基本台帳から抽出	枚	目標	4,000	4,000	4,000
			実績	3,951	4,024	4,024
警備配置人数	参加者15人／警備員1名	人	目標	166	140	166
			実績	174	161	168
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	9,565	9,560
支出	直接事業費 (b)	千円	5,615	5,660
	報償費	千円	30	30
	消耗品費	千円	49	88
	印刷製本費	千円	54	54
	食糧費	千円	78	82
	通信運搬費	千円	202	201
	筆耕翻訳料	千円	19	19
	委託料	千円	4,089	4,068
	使用料及び賃借料	千円	1,094	1,118
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	3,950	3,900
	人件費	千円	3,950	3,900
		人	0.50	0.50
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
	調整額 (e)	千円	400	475
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
退職給与引当	千円	400	475	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	9,965	10,035	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		参加者数	
実績数値 (g)	人	2,100	2,500
単位あたり区単コスト (a/g)	円	4,555	3,824
単位あたりコスト (f/g)	円	4,745	4,014

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	はたちのつどい	担当部	教育委員会事務局
		担当課	地域教育課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>はたちのつどいの実行委員会を早めに立ち上げ、関係機関と連携を密にしながら協議を重ね、式典と記念コンサートの内容の充実に努め、参加者から好評を得ている。 運営体制については、事前に関係機関と連絡・調整を十分に行うことができ、当日は大きなトラブルや事故もなかった。</p>	
今後の方向性	改善	<p>式典や記念コンサートについて、参加者の思い出に残る内容になるよう実行委員会で検討していく。 運営体制については、事前に関係機関と連絡・調整を十分に行い、当日のトラブルが無いように努める。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
参加者数	対象者の6割（過去平均）	人	目標	2,500	2,500	2,500
事故件数	事故件数なしを目指す	件	目標	0	0	0

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
参加促進を図るため、対象者全員に案内を漏れないよう通知する。	おもてなし	案内ハガキ枚数	枚	目標	4250	4250	4250
事故やトラブルを未然防止するため、警備配置人数を確保する。	おもてなし	警備配置人数	人	目標	166	166	166
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

事務事業名	子どもまつり	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	地域教育課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和55年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	民間事業者・NPO団体との協働
対象者	地域住民		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>葛飾区と葛飾区子ども会育成会連合会（区子連）の共催事業。4月下旬の休日に実施しており、会場は都立水元公園中央広場他を使用している。まつりの内容は、子ども向けの工作やゲーム、スポーツなどのコーナーを設けて、体験してもらうものとなっている。</p> <p>開催にあたっては、主催者による企画打合せや協力団体等による実行委員会を組織し、運営を行っている。周知方法は、区広報紙への掲載やポスター・チラシを各子ども会や各小学校、区施設等に配布し参加を呼びかけている。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	2001	青少年のための活動機会を整え、活発に活動できるようにします
事務事業目的	<p>手作りの遊びの楽しさを体験することで、能動的な遊びの意欲が高まる。 親子同士、他の家族との関係が深まる。 子ども会活動が活性化する。</p>		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
まつりへの参加者数	当日の参加者数	人	目標	24,000	25,000	24,000
			実績	23,000	12,000	—
参加者の満足度	アンケート調査	%	目標	90	90	90
			実績	92	86	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
まつりの従事者（ボランティア）数	当日の従事者数	人	目標	1,270	1,300	1,250
			実績	1,228	1,250	—
催し物コーナー数を確保する	コーナー数	コーナー	目標	32	32	32
			実績	32	32	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	6,903	5,421
支出	直接事業費 (b)	千円	4,533	3,081
	報償費	千円	85	0
	消耗品費	千円	1,032	521
	印刷製本費	千円	152	152
	食糧費	千円	550	0
	通信運搬費	千円	16	24
	委託料	千円	2,427	2,262
	自動車借上げ料	千円	159	106
	使用料及び賃借料	千円	112	0
	筆耕翻訳料	千円	0	16
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	2,370	2,340
	人件費	千円	2,370	2,340
		人	0.30	0.30
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
	調整額 (e)	千円	240	285
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
退職給与引当	千円	240	285	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	7,143	5,706	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		参加者数	
実績数値 (g)	人	12,000	0
単位あたり区単コスト (a/g)	円	575	—
単位あたりコスト (f/g)	円	595	—

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	子どもまつり	担当部	教育委員会事務局
		担当課	地域教育課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>区と葛飾区子ども会育成会連合会との共催事業として、連携を密にしながら実施に努めた。また、子どもまつり実行委員会を12月と4月の2回の開催で行った。参加団体の催事内容も特に大きな変更が無く、各団体との連絡調整を密にして準備を進めることができ事務の効率化を図った。</p> <p>平成25年度は前日の設営は完了し準備万端であったが、当日は朝からの雨で天候が回復する予報もなかったことから朝6時に中止と判断した。それから関係団体への中止連絡や区民に対しては区ホームページの掲載、はなしよーぶコール等で子どもまつり中止の案内を行い、特に苦情やトラブル等もなかった。</p>	
今後の方向性	改善	<p>子どもまつり実行委員会で参加団体との連絡・調整を十分に行うとともに、当日の開催が円滑に進むように運営体制を整備する。</p> <p>当日の参加者を増やすために、広報かつしかやホームページに子どもまつりの記事を掲載するとともに、ポスターやチラシを各子ども会や小学校、児童館等に配布し、広く区民に呼びかける。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
まつりへの参加者数	当日の参加者数	人	目標	25,000	25,000	25,000
参加者の満足度	アンケート調査	%	目標	90	90	90

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
まつりの従事者（ボランティア）数を確保する。	従事者を確保する	当日の従事者数	人	目標	1300	1300	1300
催し物コーナー数を確保する。	参加団体の確保	コーナー数	コーナー	目標	32	32	32
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	プラネタリウム番組制作	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	生涯学習課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成3年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	区民等		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【概要】 天文の普及と科学教育の推進を目的に、大人から子どもまでが「宇宙」について楽しみながら学べる内容のプラネタリウム番組を平成3年7月から制作・投映している。 平成19年3月には、プラネタリウム機器のリニューアルを実施し、デジタルプラネタリウムと日本初となる全宇宙の三次元地図システム（デジタルユニバース）を導入した。これにより、今までのプラネタリウムでは体験できなかった「宇宙の旅を楽しむ番組」を制作しているほか、「子ども番組」や音楽と星空を楽しむ「ミュージック・プラネット」、生演奏と星空の「プラネタリウムコンサート」など、様々な番組を投映している。また、小・中学校の天文分野の授業の1つとして「学習番組」、幼稚園・保育園を対象とした「幼児番組」を投映している。 さらに、番組内容の充実を図るため、リニューアルを契機に天文研究機関や宇宙開発機関との連携やオリジナルCG制作に取り組んだ。</p> <p>【過去の改善実績等】 ①平成21年度には、ハワイのイミロア天文学センターとプラネタリウム番組を共同制作した。 ②平成22年度には、探査機などのオリジナルのCGデータを制作し、番組内での使用のほか、館の画像財産としての蓄積を進めた。 ③平成23年度には、開館20周年特別番組「宇宙創成」を作成した。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	2101	多様な学びと交流の機会を整え、自主的な学習活動を支援します
事務事業目的	プラネタリウムを活用し、区民等に最新の科学・宇宙の情報を発信し、科学や宇宙について「知る・学ぶ・考える・体験する」面白さを実感していただき、科学教育の促進を図る。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
プラネタリウム観覧者数 （学習投映を含む）	通常番組、学習番組、幼児番組、企画番組の観覧者	人	目標	45,000	45,000	25,000
			実績	56,027	53,532	35,335
観覧者満足度	番組終了後に実施しているアンケートの結果（好評回答数／アンケート回収数×100）	%	目標	90	90	90
			実績	94	94	94

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
1年間のプラネタリウム番組の自主制作数	—	本	目標	25	25	15
			実績	25	25	6
1年間の投映数	—	回	目標	840	840	420
			実績	858	937	547
—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	8,252	4,914
	一般財源 (a)	千円	35,951	22,557
支出	直接事業費 (b)	千円	29,660	13,102
	消耗品費	千円	26	52
	印刷製本費	千円	485	316
	委託費	千円	29,143	12,728
	使用料及び賃借料	千円	6	6
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	5,900	5,460
	人件費	千円	5,900	5,460
		人	0.80	0.70
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	8,643	8,909
	調整額 (e)	千円	560	665
	減価償却費	千円	0	0
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	560	665	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	44,763	28,136

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ来場者数(観覧者数)	
実績数値 (g)	人	53,532	35,335
単位あたり区単コスト (a/g)	円	672	638
単位あたりコスト (f/g)	円	836	796

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	プラネタリウム番組作成	担当部	教育委員会
		担当課	生涯学習課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>当館プラネタリウムの特徴は、全国的に見て希少な「宇宙に関する最新情報を反映したオリジナル番組を生解説で放映」することで、平成24年7月21日付日本経済新聞の個性輝くプラネタリウムランキングでも、第9位にランクされ、その点を評価されている。</p> <p>また、全国からの視察件数も多く、全国的な認知度が高い。</p> <p>集客面でも、学習放映観覧団体の増加や年間パスポート導入等により目標を上回っている。</p>	
今後の方向性	改善	<p>今後も当館の特徴を生かした事業展開を継続する。</p> <p>プラネタリウム機器（平成19年更新）及び設備更新（平成3年開館時より使用）の更新を検討し、郷土かつしかの誇れるプラネタリウムとして、今後も区民そして全国にその魅力を発信していく。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
プラネタリウム観覧者数（学習放映を含む）	通常番組、学習番組、幼児番組、企画番組の観覧者	人	目標	50,000	50,000	50,000
観覧者満足度	番組終了後に実施しているアンケート結果（好評回答数／アンケート回収数×100）	%	目標	95	95	95

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
宇宙に関する最新情報を反映しえたオリジナル番組を制作する。	番組制作力	1年間のプラネタリウム番組の自主制作数	本	目標	10	10	10
宇宙に関する最新情報を反映しえたオリジナル番組を放映する。	放映ニーズ	1年間の放映数	回	目標	930	930	930
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	学び交流まつり	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	生涯学習課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和57年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	民間事業者・NPO団体との協働
対象者	地域住民		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>学び交流館の利用団体が主体となり、日頃の活動成果の発表、並びに団体同士や地域住民との交流を目的に、新小岩・亀有・柴又・水元の4学び交流館にてまつりを開催する。まつりの企画・運営は利用団体協議会が組織する実行委員会によって行う。ここ数年、実行委員会主体に実施されるよう支援してきたことにより、実行委員会が主体性をもって企画・運営している。</p> <p>教育委員会は、共催し、会場の確保・広報等の協力、企画・運営への助言を行う。</p> <p>平成25年度の来場者 ①新小岩600人 ②亀有3,200人 ③柴又750人 ④水元6,500人 計11,050人。</p> <p>まつり開催日数 7日間（亀有・新小岩・水元各2日間、柴又1日）</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	2101	多様な学びと交流の機会を整え、自主的な学習活動を支援します
事務事業目的	<p>利用団体が培った活動成果等を地域に発表することで、地域の文化・学習活動の発展を図る。</p> <p>利用団体が主体的にまつりを運営することで、様々な学習活動を自主的に企画し運営できる力を育む。</p>		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
来場者数	全館まつりの来場者数	人	目標	6,000	6,000	9,000
			実績	6,700	10,040	11,050
参加団体に対するアンケート結果	参加団体の満足度	%	目標	85	85	88
			実績	89	88	89

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
参加団体数	館まつり全館の参加団体数	団体	目標	100	100	100
			実績	115	110	110
新規参加団体の数	—	団体	目標	3	3	2
			実績	7	0	9
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	5,151	5,070	
支出	直接事業費 (b)	千円	41	80	
	消耗品費	千円	41	80	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	5,110	4,990
		人件費	千円	5,110	4,680
		人	0.70	0.60	
	再雇用職員	千円	0	310	
		人	0.00	0.10	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	480	570	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	480	570	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	5,631	5,640	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ来場者数	
実績数値 (g)	人	10,040	11,050
単位あたり区単コスト (a/g)	円	513	459
単位あたりコスト (f/g)	円	561	510

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	学び交流まつり	担当部	教育委員会
		担当課	生涯学習課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>学び交流館4館（新小岩・亀有・水元・柴又）の利用団体と区の共催で、まつりを開催しているが、利用団体の会員だけでなく、町会の方の協力や参加も得られ、地元のおまつりとして定着している館もある。</p> <p>また、新規の団体に参加していただくために、利用団体協議会でも直接声掛けをするなどの取組をしている。特に新小岩では、個人登録の利用者が多いということで、利用団体協議会の名称を「利用者協議会」に変更し、個人の利用者にも参加していただきやすくする工夫をしている。</p> <p>まつりの参加団体数が安定している一方で、各利用団体会員の高齢化は進んでおり、利用団体協議会に所属する団体の参加数が減少傾向にある館もある。</p>	
今後の方向性	改善	<p>館まつりの来場者数のカウント方法を見直し、4館で統一する。より実情に近い数字を出すようにする。</p> <p>館まつりは利用団体協議会が主体的に行っているが、実行委員会が高齢化し、若い担い手が育っていないのが現状である。そのため、若手の団体をまつりに取り込めるような取り組みを課でも支援していく。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
来館者数	館まつり全館の来館者数	人	目標	6,000	6,000	6,000
参加団体に対するアンケート結果	参加者の満足度	%	目標	90	90	90

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
参加団体への活動を支援する。	館まつり全館の参加団体数	参加団体数	団体	目標	110	110	110
参加団体募集のPRを工夫する。	PRの方法	新規参加団体の数	団体	目標	3	3	3
利用団体協議会への加入団体募集活動を支援する。	団体活動支援の機会	利用団体協議会役員会等の実施回数	回	目標	20	20	20
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	東京理科大学連携事業	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	生涯学習課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成21年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	他団体との協働
対象者	区民		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	東京理科大学と共催で実施 【実施内容】 みんなの理科大学（科学体験教室・特別講演会）年1回（平成24年度で終了） 【役割分担】 企画・運営：東京理科大学 会場準備・募集・周知：区 （平成25年度） オープニングイベント「サイエンス・マルシェ」（サイエンス・ラボ、スポーツキャンパス等）、科学体験教室「オドロキ科学箱」 【役割分担】 企画・運営：東京理科大学 運営・会場準備・募集・周知：区		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	2101	多様な学びと交流の機会を整え、自主的な学習活動を支援します
事務事業目的	平成25年の東京理科大学葛飾キャンパス開設に向け、区民と大学の交流を促進し理解を深める。小・中学生の理科への関心を高める。学習機会を拡大することにより、多くの区民が生涯学習に触れ、充実感や学習意欲を感じるようになる。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
参加者数（「オドロキ科学箱」）	イベント参加者	人	目標	—	—	1,000
			実績	—	—	1,022
参加者満足度（「オドロキ科学箱」）	（好評アンケート数／アンケート回収数×100） イベント参加者に実施しているアンケートの結果	%	目標	—	—	100
			実績	—	—	98

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
「オドロキ科学箱」	イベントにおける出展ブース数	ブース	目標	—	—	10
			実績	—	—	10
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	3,948	6,856	
支出	直接事業費 (b)	千円	3,000	5,920	
	委託料	千円	3,000	5,920	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	948	936
		人件費	千円	948	936
		人	0.12	0.12	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	96	114	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	96	114	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	4,044	6,970	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		参加者数	
実績数値 (g)	人	—	1,022
単位あたり区単コスト (a/g)	円	—	6,708
単位あたりコスト (f/g)	円	—	6,820

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	東京理科大学連携事業	担当部	教育委員会事務局
		担当課	生涯学習課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>平成25年度は、東京理科大学連携事業として、オープニングイベント「サイエンス・マルシェ」及び科学体験教室「オドロキ科学箱」を実施した。 「オドロキ科学箱」については、参加者数が目標値の千人を超え、高い評価を得ている。</p>	
今後の方向性	改善	<p>「オドロキ科学箱」については、開催場所及び出展ブース等の内容を工夫することにより、リピーターを確保するとともに、新規の参加者を開拓していく。 平成26年度より「地域教育機関連携公開講座」に事業統合し実施する。そのため、本事業は廃止する。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	特別展・企画展等展示	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	生涯学習課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成3年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	区民等		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【概要】 平成3年7月の開館から、博物館が調査・研究の対象とする地域史（考古・歴史・民俗・地理）及び天文学の新たな情報や調査研究の成果を「特別展、企画展」として年2回、また、博物館にボランティアとして参加している区民等の活動の成果を紹介する「活動成果展」を年1回開催している。 さらに、展示全体の規模を大きくし、展示内容の充実を図るため、複数の博物館と連携した展示や他の博物館との共同展示を開催したほか、社会的な関心事象をテーマにした展示を開催している。</p> <p>【過去の改善実績等】 ①平成21年度には、共通の研究テーマを基に、他の博物館との共同展示を開催した。 ②平成22年度には、現代社会の中で関心が持たれている「雇用と就職」をテーマにした展示を開催した。 ③平成23年度は、開館20周年記念展「小宮家のわざと人」を実施した。 ④平成24年度は、区制施行80周年を記念し、「平櫛田中とかつしか」、「葛飾区80年 町・暮らしの移り変わり」、「東京低地災害史」を実施した。 ⑤平成25年度は、下半期工事休館のため、上半期に特別展「肥やしの底チカラ」を実施した。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	2101	多様な学びと交流の機会を整え、自主的な学習活動を支援します
事務事業目的	博物館資料の展示・公開を通じて、郷土葛飾の歴史や文化・自然等を学び、地域への理解・関心・愛着を高めていただく。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
1日あたり観覧者数	特別展・企画展・収蔵品展・活動成果展の1日の観覧者	人	目標	200	200	257
			実績	334	216	346
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
期間中の観覧者数	—	人	目標	30,000	30,000	9,000
			実績	52,459	31,859	12,104
開催日数	—	日	目標	150	150	35
			実績	158	148	35
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	160	73
	一般財源 (a)	千円	30,753	12,096
支出	直接事業費 (b)	千円	22,163	8,771
	報償費	千円	227	156
	消耗品費	千円	160	171
	印刷製本費	千円	2,583	762
	通信運搬費	千円	6,259	3,645
	広告料	千円	599	126
	保険料	千円	4	2
	委託料	千円	12,175	3,738
	自動車借上料	千円	101	76
	使用料及び賃借料	千円	55	95
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	8,480	3,120
	人件費	千円	8,480	3,120
		人	1.10	0.40
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	270	278
	調整額 (e)	千円	840	380
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
退職給与引当	千円	840	380	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	31,753	12,549

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ参加者数（観覧者数）	
実績数値 (g)	人	31,859	12,104
単位あたり区単コスト (a/g)	円	965	999
単位あたりコスト (f/g)	円	997	1,037

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	特別展・企画展等展示	担当部	教育委員会事務局
		担当課	生涯学習課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>例年、特別展及び企画展を各1本ずつ、計2本実施しているが、平成23年度は博物館開館20周年、平成24年度は葛飾区区制施行80周年により3本実施した。 区内在住の人間国宝「小宮氏」や区内にアトリエを構えていた近代彫刻の巨匠「平櫛田中」、「都市化する葛飾」、「災害史」等、郷土かつしかを知るうえで欠かせないテーマで展示を行った。 (平成25年度は設備改修等による下半期休館により、特別展1本のみの実施)</p>	
今後の方向性	改善	<p>今後も、郷土かつしかに関するテーマで様々な展示を行っていく。 学芸員の研究対象を展示テーマとするだけではなく、区民の方々から広く協力を募り、協働して展示を作り上げる。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
1日あたりの観覧者数	特別展・企画展・収蔵品展・活動成果展の一日の観覧者数	人	目標	250	250	250
観覧者満足度	アンケート結果（高評価回答／総回答数）×100	%	目標	90	90	90

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
葛飾の魅力をもっとPRできるように展示内容の充実を図る	展示の実施状況	開催日数	日	目標	100	100	100
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	子ども読書活動推進	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	中央図書館

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成17年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	中学生以下の区民		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【概要】 乳幼児から中学生までの発達期の子どもたちに対して、保育園・幼稚園・学校や児童館・保健所など関係部署と連携して、各世代の推薦図書の紹介を行うなど、読書活動へのきっかけを提供する。</p> <p>【活動内容】 保健所等で行う乳幼児健康診査で絵本の読み聞かせを行い、ブックスタートパック（絵本1冊・イラストアドバイス集・図書リスト・児童館案内等）を手渡すブックスタート事業を実施する。また、調べ学習用の図書の配送や各学級で行っている学級文庫への図書の配送など学校支援図書団体パック配送を実施する。また、平成25年度より、保健所から送付される3歳の「乳幼児健診のお知らせ」に引換券を同封し、図書館に来館した区内在住の3歳児を対象として、絵本1冊とリーフレットを手渡すセカンドブック事業を実施した。</p> <p>【過去の改善実績】 ボランティアを活用して、お話し会の回数を増やしたり、ブックスタートを引換券方式から実物の配布に変更した。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	2102	多様な手段で、図書サービスを受けられるようにします
事務事業目的	「葛飾区子ども読書活動推進計画」に基づき、保健所や学校、児童館と連携しながら、子どもたちが本に親しみを持ち、自主的に読書活動を行えるようにする。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
児童書の貸出冊数	—	冊	目標	1,000,000	1,100,000	1,100,000
			実績	1,047,413	1,022,730	971,215
小学4年生の平均読書数 （この1か月に読んだ本の数）	—	冊	目標	11.00	11.00	11.00
			実績	10.30	10.00	10.10

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
ブックスタートパック手渡し数	—	パック	目標	3,800	3,800	3,800
			実績	3,612	3,594	3,617
学級配送コンテナ数	—	箱	目標	2,000	2,000	2,100
			実績	1,793	2,028	2,108
セカンドブック配布冊数	—	冊	目標	—	—	1,800
			実績	—	—	1,447
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	35,188	40,685
支出	直接事業費 (b)	千円	3,588	6,365
	報償費	千円	70	60
	消耗品費	千円	2,355	4,945
	印刷製本費	千円	0	57
	委託料	千円	1,163	1,303
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	31,600	34,320
	人件費	千円	31,600	34,320
		人	4.00	4.40
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
調整額 (e)	千円	3,200	4,180	
減価償却費	千円	0	0	
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	3,200	4,180	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	38,388	44,865	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		周知件数（ブックスタートパック手渡し数）	
実績数値 (g)	件	3,594	3,617
単位あたり区単コスト (a/g)	円	9,791	11,248
単位あたりコスト (f/g)	円	10,681	12,404

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	子ども読書活動推進	担当部	教育委員会事務局
		担当課	中央図書館

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>平成17年度から開始したブックスタート事業は引き続き図書館と保健所、地域のボランティアとも連携を図りながら実施しており安定的に配布実績を残している。また、学校図書館支援のための学校支援図書配送については、新宿図書センターが拠点となり手続きを簡素化し速やかに配送できるよう整備したことが配送数上昇の要因だと評価している。その他にも、これまで実施してきたブックスタート事業に加え、平成25年度よりセカンドブック事業を開始し、各年代向けの読書活動推進を推し進めている。</p> <p>PR活動については、0歳から小学校高学年、ボランティアに向けた「読み聞かせに向く絵本のリスト」など、推薦図書リストを作成し、図書館ホームページにそれらのリストを掲載する等の充実化に努めた。</p>	
今後の方向性	改善	<p>ブックスタートパック配布については毎年ほぼ横ばい状態で安定的に推移しており、学級配送のコンテナ数は毎年増加傾向にある。しかし、児童書の貸出冊数は年々減少傾向にあることから、目的や各年齢層に合わせた、よりきめ細かなPR活動を充実させる取り組みを行うとともに、25年度より開始となったセカンドブック事業の配布数を増やす取り組みを進めていく。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
児童書の貸出冊数	—	冊	目標	1,100,000	1,100,000	1,100,000
小学4年生の平均読書数 (この1ヶ月に読んだ冊数)	確かな学力の定着度調査結果	冊	目標	10.20	10.20	10.30

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
ブックスタートパックの手渡し数の増加を図り児童の読書活動推進につなげる	おもてなし	ブックスタートパックの手渡し数	パック	目標	3,800	3,800	3,800
学校配送のコンテナ数の増加を図り児童の読書活動推進につなげる	プロセス	学校配送のコンテナ数	箱	目標	2,150	2,200	2,250
セカンドブック配布数の増加を図り、児童の読書習慣継続につなげる	おもてなし	セカンドブック配布冊数	冊	目標	1,800	1,900	2,000
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	読書活動啓発事業	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	中央図書館

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和42年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	一般区民		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【概要】 区民を対象に、本に興味を持ち、読書活動を始めきっかけづくりを目的として、乳幼児から高齢者まで誰もが参加できる事業を実施する。</p> <p>【活動内容】 ①講演会②映画会③子ども映画会④お話し会⑤一日図書館員⑥園・学級招待⑦読み聞かせ会⑧施設訪問⑨図書館見学⑩中学生職場体験⑪新任教諭他研修等受入⑫子ども読書の日記念お話し会⑬小さい子向けお話し会⑭クリスマス会⑮七夕かざりを作ろう⑯かつしかデジタルライブラリー公開記念講演会等。</p> <p>【過去の改善実績】 子どもの読書活動推進のため、事業の実施回数を増やすとともに、PR活動の拡大に努め、参加者の増へとつなげた。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	2102	多様な手段で、図書サービスを受けられるようにします
事務事業目的	多様な学習機会を提供し参加者数を増やすことにより、図書館利用者数及び図書資料貸出数の増につなげる。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
年間図書資料貸出数	—	冊	目標	3,500,000	3,600,000	3,600,000
			実績	3,578,760	3,529,068	3,370,970
年間図書館来館者数	—	人	目標	3,300,000	3,400,000	3,400,000
			実績	3,266,916	3,309,752	3,245,074

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
年間行事参加者数 （講演会・映画会・子ども映画会等）	—	人	目標	50,000	51,000	57,000
			実績	49,076	56,822	57,772
年間行事開催数	—	回	目標	2,100	2,200	2,550
			実績	2,267	2,504	2,673
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	69,118	70,906
支出	直接事業費 (b)	千円	829	801
	報償費	千円	737	708
	消耗品費	千円	62	64
	食糧費	千円	21	20
	筆耕翻訳料	千円	9	9
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	55,300	56,940
	人件費	千円	55,300	56,940
		人	7.00	7.30
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	12,989	13,165
調整額 (e)	千円	5,600	6,935	
減価償却費	千円	0	0	
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	5,600	6,935	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	74,718	77,841

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ参加者数（各行事）	
実績数値 (g)	人	56,822	57,718
単位あたり区単コスト (a/g)	円	1,216	1,228
単位あたりコスト (f/g)	円	1,315	1,349

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	読書活動啓発事業	担当部	教育委員会事務局
		担当課	中央図書館

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>IT技術の発達による電子図書やネット図書館といった新しい分野の情報提供手段が増え図書館を取り巻く環境が変化するなか、年間図書館来館者数は毎年3,000,000人を超えている。これは積極的に多種多様な年間行事開催数を増やし、読書活動を行うきっかけづくりを図ったことが一つの要因だと評価している。</p>	
今後の方向性	改善	<p>年間図書資料貸出数は若干の減少傾向にあることから、乳幼児からの読書の習慣づけや、読書離れが進む中高生への啓発を推進する取り組みを行う。その他にも講演会などを通じて、ビジネス・医療・健康・福祉等の区民の課題解決に役立つ情報の提供を充実させていく。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
年間図書資料貸出数	—	冊	目標	3,600,000	3,600,000	3,600,000
年間図書館来館者数	—	人	目標	3,400,000	3,400,000	3,400,000

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
読書活動の推進に向けた多様な学習機会を提供する。	おもてなし	年間行事参加者数 (講演会・映画会・子ども映画会等)	人	目標	58,000	58,500	59,000
読書活動の推進に向けた多様な学習機会を提供する。	プロセス	年間行事開催数	回	目標	2,700	2,800	2,900
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	区民体育大会	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	生涯スポーツ課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	—	根拠法令	スポーツ基本法第22条
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（委託）
対象者	区民全般		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	体育協会加盟の各団体が主管となり、各種目において少年少女から高齢者を対象とした区民体育大会（春季33種目・夏季4種目・秋季33種目・冬季2種目）、墨東地域の交流を兼ねて各種目5年に一度本区が担当となる墨東五区大会（14種目）を開催する。広報紙・インターネットによる各大会の募集案内や、各大会ごとの大会要項・申込書配布などを行う（各大会の運営は各連盟にて実施）。		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	2201	多様なスポーツの機会を提供します
事務事業目的	区民が日頃の練習の成果を試す機会を提供し、各世代に合わせた競技力向上・維持増進、また継続的にスポーツに親しめるようにする。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
区民体育大会の延べ参加人数	—	人	目標	—	—	40,000
			実績	37,038	36,005	31,318
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
区民体育大会の延べ大会数	—	回	目標	68	70	69
			実績	65	69	69
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	23,523	26,195
支出	直接事業費 (b)	千円	14,848	17,890
	報償費	千円	0	46
	消耗品費	千円	2,111	2,055
	印刷製本費	千円	1,755	1,522
	食糧費	千円	203	167
	通信運搬費	千円	32	24
	手数料	千円	30	0
	保険料	千円	100	100
	委託料	千円	3,527	2,836
	自動車借上料	千円	667	610
	使用料及び賃借料	千円	6,423	10,530
	職員人件費 (c)	千円	8,675	8,305
	人件費	千円	8,675	6,755
		人	1.55	1.05
	再雇用職員	千円	0	1,550
		人	0.00	0.50
	間接費 (d)	千円	0	0
	調整額 (e)	千円	560	665
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
退職給与引当	千円	560	665	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	24,083	26,860

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ参加者数	
実績数値 (g)	人	38,185	33,943
単位あたり区単コスト (a/g)	円	616	772
単位あたりコスト (f/g)	円	631	791

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	区民体育大会	担当部	教育委員会事務局
		担当課	生涯スポーツ課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・大会数は増えているが、参加者数が減少傾向にある。 ・天候不良による中止が1大会、国体開催に伴う中止が2大会あったため、参加者数の減少が顕著になっている。 	
今後の方向性	改善	・各競技種目の底辺拡大を図るため、体育協会と連携して各体育団体の普及活動について指導・助言を行う。
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
区民体育大会の延べ参加人数	全大会の参加者数	人	目標	35,000	36,000	37,000
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
参加者数を増やすため、幅広いスポーツをする場を提供する。	おもてなし	区民体育大会の延べ大会数	回	目標	71	72	72
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	少年スポーツ等推進	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	生涯スポーツ課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	—	根拠法令	スポーツ基本法第22条
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営・委託）
対象者	区内小中学生		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【概要】 主として少年少女に対しスポーツを始めるきっかけづくりの場としての教室や気軽に参加できるスポーツ大会など多様なスポーツの機会を提供するために実施する。</p> <p>【活動内容】 スポーツ教室 区民スポーツ大会（ジュニアエンジョイスポーツ） 水泳管理指導員養成講習会</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	2201	多様なスポーツの機会を提供します
事務事業目的	区内小中学生に対して、様々なスポーツの機会を提供することで、健康でいきいきとした生活を送ることができる状態にする。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
スポーツ教室（少年少女向け、親子向け）参加者数	—	人	目標	—	—	350
			実績	289	295	282
ジュニアエンジョイスポーツ参加者数	延べ参加者数（エンジョイスポーツ総合開会式＋当日のスポーツ教室＋ジュニアエンジョイスポーツ大会）	人	目標	—	—	22,125
			実績	25,837	24,925	23,618

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
全教室の実施回数の合計	—	回	目標	—	—	6
			実績	7	6	6
大会数	—	回	目標	—	—	15
			実績	15	15	15
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	22,890	22,144
支出	直接事業費 (b)	千円	14,930	15,614
	報償費	千円	356	365
	消耗品費	千円	1,904	1,637
	印刷製本費	千円	252	253
	通信運搬費	千円	3	4
	保険料	千円	84	60
	委託料	千円	9,616	10,624
	自動車借上料	千円	19	80
	使用料及び賃借料	千円	2,696	2,591
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	7,960	6,530
	人件費	千円	7,960	6,220
		人	1.30	0.85
	再雇用職員	千円	0	310
		人	0.00	0.10
	間接費 (d)	千円	0	0
	調整額 (e)	千円	600	807
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
退職給与引当	千円	600	807	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	23,490	22,951

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ参加者数 (教室+ジュニアエンジョイスポーツ大会 +水泳管理指導員養成講習会)	
実績数値 (g)	人	25,235	23,909
単位あたり区単コスト (a/g)	円	907	926
単位あたりコスト (f/g)	円	931	960

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	少年スポーツ等推進	担当部	教育委員会事務局
		担当課	生涯スポーツ課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアエンジョイスports総合開会式及びジュニア向け教室6種目、スポーツ大会15大会を開催して、年間を通して少年少女のスポーツ参加機会を提供した。 ・カーン教室等、子どもがスポーツを楽しむきっかけとなる教室を6教室実施した。 ・夏休みの学校プール開放等に地域において安全・安心に水泳活動を行っていただくために、水泳管理指導員の養成を年に1回行った。 	
今後の方向性	改善	<ul style="list-style-type: none"> ・体育協会と連携して、少年少女向けの種目の教室・大会の更なる拡大を図ることにより、スポーツ機会の増加につなげていく。 ・少年少女向け種目の教室・大会を実施以降、継続的に活動ができるよう各種目団体の受け入れ体制整備について支援を行っていく。
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
スポーツ教室（少年少女向け、親子向け）参加者数	年間を通じた教室参加者数	人	目標	350	360	370
ジュニアエンジョイスports参加者数	年間を通じた大会参加者数	人	目標	22,000	22,000	22,000

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
教室実施回数の合計	おもてなし	年間を通じた教室開催数	回	目標	6	6	7
大会数	おもてなし	年間を通じた大会開催数	回	目標	15	15	16
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	スポーツフェスティバル	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	生涯スポーツ課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	—	根拠法令	スポーツ基本法第23条
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	区民全般		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>区内全スポーツ施設を利用して、各種イベントを実施する。陸上競技場では、運動会形式の親子リレーなど地区対抗競技（参加地区：青少年育成地区委員会19地区）や、誰でも自由に参加できる、パン食いゲームなど実施する。また、陸上競技場周辺広場や体育館内では、様々なスポーツ体験コーナー、区内企業や障害者施設によるフードコート、施設を巡ってスタンプを集めるウォークラリーイベントを実施する。その他、温水プールやトレーニングルーム・野球場・テニスコートなど施設無料開放や、民間フィットネスクラブによる協賛プログラムを実施するなど、区民がスポーツを気軽に楽しめる1日となるようなイベントを実施する。企画・運営は関係団体による実行委員会を組織して行う。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	2201	多様なスポーツの機会を提供します
事務事業目的	<p>体育の日を記念したスポーツの祭典として、区民に広くスポーツへの理解と関心を深め、積極的にスポーツ活動に参加する意欲と高揚を促し共に、多くの区民にスポーツと健康を意識させてゆく。</p>		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
各種イベントの延べ参加人数	全イベントの参加人数	人	目標	34,000	35,000	36,000
			実績	29,122	32,194	35,492
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
実施イベント数	全イベント数	回	目標	77	78	79
			実績	80	78	87
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	14,485	16,606
支出	直接事業費 (b)	千円	8,215	9,451
	報償費	千円	554	571
	消耗品費	千円	1,065	1,062
	印刷製本費	千円	426	401
	食糧費	千円	300	367
	通信運搬費	千円	61	61
	手数料	千円	80	84
	筆耕翻訳料	千円	21	21
	保険料	千円	158	160
	委託料	千円	4,983	4,978
	自動車借上料	千円	567	567
	使用料及び賃借料	千円	1,027	1,179
	職員人件費 (c)	千円	6,270	7,155
	人件費	千円	6,270	7,000
		人	0.90	0.95
	再雇用職員	千円	0	155
		人	0.00	0.05
	間接費 (d)	千円	0	0
	調整額 (e)	千円	560	807
	減価償却費	千円	0	0
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	560	807	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	15,045	17,413

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ参加者数	
実績数値 (g)	人	32,194	35,492
単位あたり区単コスト (a/g)	円	450	468
単位あたりコスト (f/g)	円	467	491

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	スポーツフェスティバル	担当部	教育委員会
		担当課	生涯スポーツ課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム数については、体育協会傘下団体及び関係団体や協賛企業の協力により増加している。 ・会場内に飲食ブースを設けることにより、1日を通してイベントを楽しめる環境が整い、延べ参加人数が増加した。 	
今後の方向性	改善	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの方がスポーツを楽しむ1日となるように、区体育施設を含めた様々な場所でのイベントを企画していくよう検討する。
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
各種イベントの延べ参加人数	全イベントの参加人数	人	目標	35,000	35,000	35,000
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
多くの方に、様々なスポーツを体験してもらうため、イベント数を増やす。	おもてなし	実施イベント数	回	目標	86	87	88
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	文化・芸術・スポーツ功労章 顕彰	重点評価 区分	重点	担当部	総務部
				担当課	総務課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和59年度	根拠法令	葛飾区文化・芸術・スポーツ功労章 顕彰要綱
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	区民		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施 内容、手段、過去の 改善実績等）	<ul style="list-style-type: none"> ・葛飾区文化・芸術・スポーツ功労章顕彰は昭和59年より行っている。 ・被顕彰者は各部局の内申により、審査会の審査（随時）を経て区長が決定する。 ・区長が決定後に表彰式を開催。功労章、賞状、記念品を授与する。 		

2 施策及び事務事業目的

施策 番号	施策	—	—
事務事業目的	広く区民に敬愛され社会に希望を与え、葛飾区の名を高めた者及び団体の功績を称えること で文化芸術スポーツの振興発展を図る。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
日頃から運動やスポーツをしている区民の割合	葛飾区政策・施策マーケティング調査	%	目標	—	—	—
			実績	—	—	59.3
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
推薦件数	—	件	目標	5	5	5
			実績	5	0	3
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	395	476	
支出	直接事業費 (b)	千円	0	86	
	消耗品費	千円	0	76	
	筆耕翻訳料	千円	0	10	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	395	390
		人件費	千円	395	390
		人	0.05	0.05	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	40	48	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	40	48	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	435	524	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ参加者数（表彰者数）	
実績数値 (g)	人	0	3
単位あたり区単コスト (a/g)	円	—	—
単位あたりコスト (f/g)	円	—	—

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	文化・芸術・スポーツ功労章顕彰	担当部	総務部
		担当課	総務課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	表彰件数が、年によって0件から5件と、ばらつきがあるものの、日頃からスポーツを楽しんでいると回答した区民の割合は、ほぼ横ばいである。	
今後の方向性	改善	<p>広く区民に敬愛され社会に希望を与え、葛飾区の名を高めた者及び団体の功績を称えることで文化、芸術、スポーツの振興発展を図る。</p> <p>顕彰を称えるために、ホームページ等の活用など広報に努め、広く区民に知らせる。</p> <p>なお、葛飾区政策・施策マーケティング調査項目の変更に伴い、成果指標も変更する。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
日頃から運動やスポーツをしていると回答した区民の割合	葛飾区政策・施策マーケティング調査	%	目標	—	60.0	—
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
葛飾区の名を高めた者及び団体の功績を称えることで、区民に希望を与え、文化芸術スポーツの振興を図る。	おもてなし	推薦件数	件	目標	5	5	5
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	新年賀詞交歓会関連	重点評価区分	重点	担当部	総務部
				担当課	総務課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	—	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（委託）
対象者	区民、職員		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	①仕事始・納式開催準備、式進行、区長挨拶の放送及び挨拶文送付 ②新年賀詞交歓会招待者リストの取りまとめ・招待状発送等準備、会の開催		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	—	—
事務事業目的	①仕事始・納式 職員の士気高揚を図る。 ②新年賀詞交歓会 円滑な区政運営と振興を図る。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
賀詞交歓会招待者数	—	人	目標	1,600	1,600	1,600
			実績	1,313	1,492	1,678
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
開催回数（賀詞交歓会）	—	回	目標	1	1	1
			実績	1	1	1
開催回数（仕事始、納式）	—	回	目標	2	2	2
			実績	2	2	2
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	2,331	1,880	
支出	直接事業費 (b)	千円	751	710	
	食糧費	千円	665	613	
	通信運搬費	千円	60	71	
	使用料及び賃借料	千円	26	26	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	1,580	1,170
		人件費	千円	1,580	1,170
		人	0.20	0.15	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	140	143	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	140	143	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	2,471	2,023	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ来場者数(賀詞交歓会)	
実績数値 (g)	人	1,492	1,678
単位あたり区単コスト (a/g)	円	1,562	1,120
単位あたりコスト (f/g)	円	1,656	1,205

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	新年賀詞交歓会関連	担当部	総務部
		担当課	総務課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	賀詞交歓会の参加者数は、毎年約400名で推移している。	
今後の方向性	改善	
	継続	新年賀詞交歓会の円滑な運営と振興を図る。

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
賀詞交歓会招待者数	—	人	目標	1,700	1,700	1,700
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
区内各界の代表者が区政に関する意見交換を行うと共に、出席者相互の情報交換の場を提供する。	おもてなし	開催回数（賀詞交歓会）	回	目標	1	1	1
職員の士気高揚を図る場を設ける。	人づくり	開催回数（仕事始、納式）	回	目標	2	2	2
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	自治功労者表彰	重点評価区分	重点	担当部	総務部
				担当課	総務課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和37年度	根拠法令	葛飾区表彰規則 葛飾区自治功労表彰要綱
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	本区の自治行政に寄与し、功労顕著にして他の模範となる者		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【概要】 各分野（地域振興、納税、消防、社会福祉など）において区民生活の向上や自治行政に寄与するなど、本区の発展に多大な貢献をした者を表彰する。</p> <p>【活動内容等】 ① 自治功労者表彰には功労別表彰の「自治功労者表彰」と、功績がより顕著な者（再表彰者含む）に対する「特別表彰」（特別表彰制度は平成14年度開始）の2種類がある。 ② 被表彰者は、所属部局の長の内申により、審査会の審査を経て区長が決定する。 ③ 例年11月に表彰式を開催。記念品、表彰状、被表彰者名簿、記念写真を授与する。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	—	—
事務事業目的	自治行政に寄与し、功労顕著にして他の規範となる行為を表彰することにより、区の振興発展を図る。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
地域活動に参加したことがあると答えた回答率	葛飾区政策・施策マーケティング調査	%	目標	—	—	—
			実績	19.4	18.6	28.5
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
表彰者数	—	人	目標	130	130	130
			実績	135	98	85
式典表彰者の出席率	—	%	目標	80.0	80.0	80.0
			実績	86.7	74.0	82.4
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	4,739	4,226
支出	直接事業費 (b)	千円	1,579	1,496
	消耗品費	千円	1,059	1,012
	印刷製本費	千円	156	168
	食糧費	千円	27	8
	委託料	千円	272	233
	使用料及び賃借料	千円	58	56
	通信運搬費	千円	7	19
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	3,160	2,730
	人件費	千円	3,160	2,730
		人	0.40	0.35
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
	調整額 (e)	千円	320	333
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
退職給与引当	千円	320	333	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	5,059	4,559

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		表彰者数	
実績数値 (g)	人	98	85
単位あたり区単コスト (a/g)	円	48,357	49,718
単位あたりコスト (f/g)	円	51,622	53,629

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	自治功労者表彰	担当部	総務部
		担当課	総務課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	自治功労者表彰については、長年の実績があり自治行政に寄与した者を区が毎年表彰をすることで、区の謝意の表明や受賞者の栄誉などに一定の成果をあげている。	
今後の方向性	改善	事業内容に関しては安定して成果をあげており、基本的な事業内容は継続して行っていくこととする。 ただし、表彰が対象者の励みになるものであるよう、必要に応じて事業の充実を図るなどの改善を図っていくものとする。
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
地域活動に参加したことがあると答えた回答率	葛飾区政策・施策マーケティング調査	%	目標	—	30.0	—
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
表彰者数（特別表彰者を含む）の増加を図る。	人づくり	表彰者数	人	目標	130	130	130
表彰が区民にとって地域活動の励みとなり、格調のあるものであるよう、出席率の向上を図る。	おもてなし	式典の表彰者の出席率	%	目標	85.0	85.0	85.0
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	区史編さん事業	重点評価区分	重点	担当部	総務部
				担当課	総務課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成25年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（委託）
対象者	区民		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【概要】 昭和60年の刊行から27年が経過した「増補葛飾区史」を平成25年度から新たに編さんしている。新たな区史の編さん期間は平成25年度から平成28年度末まで、刊行は平成29年3月を予定している。</p> <p>【活動内容】 ①学識経験者、区民団体代表で構成される葛飾区史編さん委員会を設置した。平成25年度中は3回の委員会を開催し、編さん方針や全体構成を定めた。 ②平成25年度から平成28年度末まで、区史編さんを支援する事業者を選定した。（債務負担行為）</p> <p>【過去の改善実績】 なし。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	—	—
事務事業目的	葛飾区史を通じて、ふるさとである葛飾の由来や魅力等について区民に伝えるとともに、後世にその歴史を引き継いでいくことを目的としている。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
葛飾区史編さん委員会の開催	—	回	目標	—	—	3
			実績	—	—	3
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
昭和の葛飾を伺う会の実施回数	19地区	回	目標	—	—	0
			実績	—	—	0
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	0	25,803,458
支出	直接事業費 (b)	千円	0	6,503,458
	報償費	千円		284,000
	消耗品費	千円		79,843
	印刷製本費	千円		42,000
	通信運搬費	千円		7,615
	委託費	千円		6,090,000
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	0	19,300,000
	人件費	千円	0	19,300,000
		人	0.00	3.00
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
	調整額 (e)	千円	0	0
	減価償却費	千円	0	0
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	0	0	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	0	25,803,458	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		葛飾区史編さん委員会開催回数	
実績数値 (g)	回	—	3
単位あたり区単コスト (a/g)	円	—	8,601,152,667
単位あたりコスト (f/g)	円	—	8,601,152,667

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	区史編さん事業	担当部	総務部
		担当課	総務課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	昭和60年の刊行から27年が経過した「増補葛飾区史」を平成25年から新たに編さんしている。本事業は、平成25年度から平成28年度までの4年間を編さん期間とするサンセット事業である。	
今後の方向性	改善	
	継続	平成28年度末の刊行に向けて、平成25年度から開始した事業であるため、現時点での見直しは行わない。

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
葛飾区史編さん委員会の実施	—	回	目標	3	3	3
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
区民とともに作る葛飾区史の編さんを推進する	協働	昭和の葛飾を伺う会の実施回数	回	目標	19	0	0
区民とともに作る葛飾区史の編さん過程を周知する	おもてなし	編さん過程を公開するホームページの更新回数	回	目標	—	6	4
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	納税奨励事務（税の普及・広報）	重点評価区分	重点	担当部	総務部
				担当課	税務課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和25年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	納税義務者、中学生		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【概要】 申告期限・納期限の周知及び口座振替の勧奨、租税教育の推進を図る。</p> <p>【活動内容】 ①広報かつしか、かつしかエフエム、ホームページ、納税キャンペーンにより、申告期限・納期限の周知及び口座振替の勧奨をする。 ②庁用車約50台に年間4回、納期限を表示したマグネットパネルを約2週間ずつ掲示し、納期限の周知を図る。 ③区立中学校校長会に依頼し、学校を通じ夏休み期間中に中学生から「税についての作文」を募集する。（葛飾納税貯蓄組合連合会主催） 文の構成や内容、税に対する理解度などを審査し、最優秀作品には区長表彰を行う。</p> <p>【過去の改善実績】 平成18年度から納税キャンペーンを実施している。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	—	—
事務事業目的	広報活動により、納税意識の向上、特別区税の期限内申告、期限内納付及び口座振替による納付を促し安定した区の財源確保を図る。また、作文募集を通じて税についての意識を高め、租税教育の推進を図る。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
住民税普通徴収納期内納付率	納期内収入額／調定額×100 （※統計処理時期の関係により、各年度の実績値は前年度のものとする）	%	目標	80.0	75.0	75.0
			実績	70.7	71.9	71.9
住民税普通徴収申告者数	課税（均等割のみ・所得割のみ・均等割＋所得割）＋非課税	人	目標	220,000	200,000	200,000
			実績	197,426	198,856	199,588

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
広報活動の実施件数	周知件数（FM放送回数＋広報紙掲載回数＋掲示する庁用車台数）	件	目標	300	300	300
			実績	274	289	209
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	166	212	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	2,333	2,347	
支出	直接事業費 (b)	千円	244	239	
	消耗品費	千円	5	3	
	印刷製本費	千円	235	232	
	筆耕翻訳料	千円	4	4	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	2,255	2,320
		人件費	千円	1,975	2,320
		人	0.25	0.35	
	再雇用職員	千円	280	0	
		人	0.10	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	200	238	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	200	238	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	2,699	2,797	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		周知件数（FM放送回数＋広報紙掲載回数＋掲示する庁用車台数）	
実績数値 (g)	件	289	209
単位あたり区単コスト (a/g)	円	8,073	11,230
単位あたりコスト (f/g)	円	9,339	13,383

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	納税奨励事務（税の普及・広報）	担当部	総務部
		担当課	税務課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>広報かつしかやかつつしかFM等を活用した納期限の周知や、納税キャンペーンなどの取り組みにより、成果指標は目標値に達していないものの、毎年増加傾向にあり、一定の成果がみられた。</p> <p>葛飾納税貯蓄組合主催の「税についての作文」については、生徒数が減少傾向にある中、作文応募率は平成23年度～25年度の3か年平均75%となっており、多くの生徒の税に対する意識向上を図ることができた。</p> <p>また、平成24年度からはペイジー口座振替受付サービスも開始しており、口座振替の更なる勧奨により利用者の利便性向上にも努めている。</p>	
今後の方向性	改善	<p>今後も、既存の広報活動等に取り組み、特別区税の期限内申告・納期内納付を促していく。</p> <p>さらに、平成27年度システム改修に併せてクレジットカード納付を開始し、利用者の利便性を向上させるとともに、納期内納付の拡充・拡大を図っていく。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
住民税普通徴収納期内納付率	納期内収入額／調定額×100	%	目標	75.0	75.0	75.0
住民税普通徴収申告者数	課税（均等割のみ・所得割のみ・均等割＋所得割）＋非課税	人	目標	200,000	200,000	200,000

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
広報活動により、納税意識の向上や特別区税の期限内申告、期限内納付を促す。	おもてなし	広報活動の実施件数	件	目標	210	210	210
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。